

●片岡善仁・粕谷紗代子・瀬野恵理子・福士輝・根岸寛光・奥田誠一・篠原弘亮 キュウリ導管液に生息する細菌のフローラへのプロベナゾール剤処理における影響 Kataoka, Y., Kasuya, S., Seno, E., Fukushi, H., Negishi, H., Okuda, S., and Shinohara, H.: Effect of Probenazole Treatment on Bacterial Flora in Xylem Sap of Cucumber Plants

演者らはキュウリの導管液に生息している細菌のフローラを明らかにしたことから（片岡ら, 2010）, プロベナゾール粒剤 (PBZ) がこのフローラに与える影響を調査した。温室でポット栽培したキュウリ（品種：ときわ333）の第10葉展開期に1株当たり5gのPBZを土壤混和したポットに移植した。移植21, 26日後に地際部から高さ30cmの茎より採取した溢泌液を導管液とみなし、これを分離源に普通寒天培地を用いて細菌を分離した。分離5日後に細菌数を計測後、系統抽出法を用いて鉄菌した菌株を脂肪酸解析 (MIDI法) で類別した。無処理区とPBZ処理区とともに約 10^3 cfu/mlであった。無処理区では分離株133菌株が~~1219~~属に類別され、*Microbacterium*属(分離割合33.8%)、*Clavibacter*属(21.8%)、*Brevundimonas*属(9.8%)が優占的であった。PBZ処理区では分離株150菌株が~~1419~~属に類別され、*Microbacterium*属(28.0%)、*Sphingobium*属(18.0%)、*Sphingomonas*属(12.0%)が優占的であった。PBZ処理は導管液に生息する細菌のフローラにほとんど影響を与えたなかった。

(東京農大農)